

【 62 】

氏名	植 木 亨
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 1396 号
学位授与の日付	平成7年3月31日
学位授与の要件	医学研究科 内科系内科学（一）専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Expression of ICAM-1 on M cells covering isolated lymphoid follicles of the human colon (ヒト大腸孤立 リンパ濾胞上のM cellにおけるICAM-1の発現)
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 太田 善介 教授 原田 実根

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ヒト大腸における、‘M’ (microfold またはmembranous) cellの免疫学的役割を明らかにするために、大腸孤立リンパ濾胞上のM cellと follicle-associated epithelium(FAE)におけるintercellular adhesion molecule-1(ICAM-1)およびHLA-classII抗原の発現を免疫組織学的に検討し、小腸のパイエル板と比較した。小腸のパイエル板においては、リンパ濾胞を覆う上皮にICAM-1の発現は認められなかったが、HLA-DR抗原の発現は認められた。これに対して、大腸孤立リンパ濾胞を覆う上皮においては、ICAM-1の発現が認められたが、HLA-classII抗原の発現は認められなかった。免疫電顕による観察では、ICAM-1はM cellの管腔側突起表面、その直下の小胞表面および内包する単核球との細胞隣接面の一部に発現が認められたが、近傍のFAEには発現が認められなかった。以上より、大腸孤立リンパ濾胞上のM cellは、小腸パイエル板上のM cellとは異なった免疫学的機能を果たすことが示唆され、M cell上のICAM-1の発現は、大腸孤立リンパ濾胞より始まると考えられているいくつかの炎症性腸疾患の病因を解明する上での手がかりとなると思われる。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、ヒト大腸孤立 リンパ濾胞上のM細胞におけるICAM-1分子の発現を検討したものである。この結果、小腸パイエル板上のM細胞では、ICAM-1分子の発現を認めず、HLAクラスII DR分子の発現を認めるのに対して、大腸孤立 リンパ濾胞M細胞では、ICAM-1が発現しており、一方、DR分子の発現は認めなかった。この知見は、大腸孤立 リンパ濾胞にその原因が考えられるいくつかの炎症性腸疾患の病因を解明する上で、重要な知見であると考えられる。従って、本研究者は、博士（医学）の学位を得る資格があると認められる。